

中学生の指導に必要な「丁寧さ」

港区立青山中学校長 福井 正仁

平成 25 年 12 月から、保護者会、学校評議員会等の資料として、リーフレット「中学生を『大人』に！」をまとめてきました。このタイトルには、生徒に中学校 3 年間で「バランスのとれた大人」へのステップを確実に上らせたいという私どもの決意を込めています。青山中学校が、「中学生を『大人』に！」のスローガンを掲げ、保護者、地域の皆様の盤石な支援体制の下に、日々の教育活動が実施できることに、改めて感謝申し上げます。

先ず、これまでのリーフレット「中学生を『大人』に！」の内容の概要を紹介します。

○No. 1 (平成 25 年 12 月)「中学生の時期の特性」

中学生の時期は自己形成期であり、既存のものを批判的に見る傾向もあるため、私たちは、中学生の年代の行動について、否定的に見がちです。しかし、中学生は、試行錯誤しながらも、懸命に「大人」へのステップを上っています。

今の子どもたちの社会性に課題があるとの指摘もありますが、一方、昔と比べて、自分らしさを発揮し「横並び」ではない生き方を求め、また、自分の意見をもち他と調整するといった秀でた面もあります。

中学生にかかわる大人は、よきモデルや指針を示し、彼らが主体的に自らの課題を受け止め、解決策を探っていくような環境設定に努めることが大切です。目先の利益にウエイトをかけ過ぎ、「安全なルール」を敷き、そのルールをまっすぐに走らせるだけでは、自立できにくくなります。

○No. 2 (平成 26 年 11 月)「地域事業と学校」

青山地区は、キャンプやスキー、走ろう会、中学生座談会など多彩な地域事業が展開され、多くの生徒が参加しています。これらの行事への主体的な参加を通して、人と人とのコミュニケーションの輪が広がり、生徒の自主性、主体性や社会スキルが培われます。中学生は、人に「何か」をしてもらって満足する年代ではなく、自ら「何か」をしてこそ達成感が得られます。

学校でも、青山地区をはじめ、式根島、岐阜県郡上市等の学校、幼稚園との交流を実施しています。また、地域の美術館等に出かけて行う学習、地域の皆様に来ていただく「出前授業」も数多く実施しています。さらに、地域の事業所等に受け入れていただく職場体験・訪問も毎年実施し、生徒の経験の幅を広げています。

○No. 3 (平成 26 年 12 月)「人と人との『つながり』」

子どもたちの学習や生活の充実に、学校、家庭、地域の人々の「つながり」が重要な要素です。そして、学校は、人と人との「つながり」で成り立つ組織です。中学生の時期は、人との関係に大変敏感になり、人間関係に悩むことも多くなります。相互に気遣いしながら生活している姿を見ていると、何とかよい関係をつくりたいと願い、苦労していることが分かります。中学生時代に、人と人との多様な「つながり」を体験し、「つながり」の温かさやありがたさを味わってほしいと願っています。

○No. 4 (平成 27 年 6 月)「『中学生らしさ』とは」

社会が求める「中学生らしさ」は、「子どもらしさ」に包括されるように、小学生に求める子ども像と大きな差がないように思います。「小学生までは素直だったのに、中学生になると生意気になった」といった声もよく聞かれます。

しかし、思春期を迎える子どもたちは、「素直さ」がなくなるわけではなく、「素直さ」の質が変化するのです。幼少期は大人に言われた通り行動することが「素直さ」と受け止められます。しかし、思春期の子ども「素直さ」は、周りの人の指示や意見を自分なりに受け止め、ときには同意し、ときには反論もしながら、自らの考えや判断に基づいて行動することです。その際、考えが独りよがりであるときは、広い視野で考え、多様な考えをも包含できる考えに高めていけるよう助言しなければなりません。しかし、自らの考えをもてることの「素直さ」は、「大人」へのステップとして大切にしたいです。

●今号では、中学生の指導に必要な「丁寧さ」について考えます。

子どもたちの教育環境を丁寧に整備していくことは、私たち大人の大切な役割です。しかし、「丁寧さ」は、幼児や小学生に対するものとは異なります。リーフレット No. 1～No. 4 に記した中学生の時期の特性に応じた「丁寧さ」が求められるように思います。大人が先回りして中学生が進む道を完璧につくってしまったら、彼らが自ら考え、主体的に判断する機会がなくなります。子どもたちは、これから先、ますます変化の激しい時代を生き抜いていかなければなりません。そのために、自ら考え、判断して、問題を解決していくことのできる資質や能力を育てていきたいと考えます。子どもたちが、ときには試行錯誤しながらも、自ら学び、問題を解決していくことができる環境を整備していくことが必要です。

自分で自分の道を切り開いていく中学生は、戸惑いや悩みも多くなる時期です。それぞれの戸惑いや悩みをしっかり受け止めて、アドバイスや指導をすることも私たちの大切な役割です。家庭、地域、学校、関係機関が強く連携して、悩み多き中学生に的確な支援を行える環境を丁寧に整備していきたいと考えます。

○「青中だより」平成 27 年 10 月号の抜粋

「さわやかな挨拶が飛び交う温かい学校」をモットーとする青山中学校は、毎日ご来校いただく多くの皆様に、例外なく温かい雰囲気を感じ取っていただいています。しかし、まだまだ無邪気な一面を見せる中学生といえども、思春期真っ只中の生徒には、悩みも尽きないものです。人はだれでも夢や希望、喜びがある一方で、同時に悩みや苦しみもかかえています。

青山中学校の温かさは、職員・生徒相互の温かい人間関係や全職員が全生徒にかかわる指導体制等により醸し出されるものです。本校では、自慢の温かさを維持・向上させる取組に力を入れています。生徒が、学級担任、学年や教科の教員のみならず、スクール・カウンセラーをはじめとした様々な職員に気軽に相談できる環境づくりがその一つです。「学校生活に関するアンケート」を毎月の初めに全生徒対象に実施し、生徒一人一人が自らを振り返り、自らの力で課題を解決できるよう、相談を促しています。学習、進路、友人、先生、学級、部活動、自分の性格、体や健康、家庭のことなどについて、特定の職員を指名する相談もあります。様々な悩みを抱えながらも、困難に打ち勝ち、前向きに生きていこうとする生徒の姿に、私自身も励まされます。適時・適切な支援を受けながらも、自らの道を自ら切り開いていこうとする生徒を学校の組織を挙げて支援する決意を新たにしています。

○「青中だより」平成 27 年 11 月号の抜粋

毎年、熱が入る合唱コンクールは、生徒の心のつながりと成長を実感します。各学級の学芸発表会実行委員、指揮者、伴奏者等が中心となって練習を計画し、実施しますが、リーダーの気持ちが全員に通じるまでには、紆余曲折があります。学級の二十数人から三十人の心の動きが複雑に絡み合いながらも、一つにまとまっていく過程は、苦しさと言いが交差する過程と言えます。今年も、幾多のドラマが繰り広げられました。だからこそ、当日の発表には心が大きく揺さぶられます。

3組の生徒は、3年生が在籍せず全員でも8人という少人数で、2年生がリーダーとなって練習に力を入れてきました。合唱と「青中太鼓」の両方に、一人一人が主演として演奏する誇らしい姿は、脳裏に焼き付いています。中学生は、このような集団での活動を通して、また一段と「大人」になっていきます。生徒の自主性・主体性が一層高められる教育環境を保護者、地域の皆様とともに丁寧に整備していきたいと考えます。

保護者、地域の皆様とともに、夢に向かって自らの道を切り開く子どもたちの教育環境整備を一層進めてまいります。引き続きのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

※「中学生を『大人』に！」のバックナンバーは、本校のホームページでもご覧いただけます。